北海道帯広三条高等学校　学校通信　第63号

樹蔭静ゆ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL：0155（37）5501
発行日　令和７年３月２４日

三条からの旅立ちに盛大な拍手で送る～第75回卒業式

３月１日、第７５回卒業式が挙行され、228名の生徒が本校から旅立ちました。

各クラス代表が卒業証書を受け取った後、式辞で「これからの人生でつらい局面にぶつかった時には視点を変えてみてほしい」と右手を掲げて回す例のパフォーマンスを再度披露。保護者の皆さんも右手を回して頷く様子も見受けられました。

送辞として生徒会長の小山碧さんが卒業生への感謝を述べ、卒業生を代表して前生徒会長の川原良佳織さんが答辞を述べました。その中で、ようやくコロナ禍から解放されて新たな取り組みができたことへの感謝、そして今までの高校生活を振り返り、それを支えてくれた家族への感謝の言葉を述べました。

式を終えた後、橋本年次主任からサプライズメッセージのお知らせがあり、auの卒業生を応援するサプライズ企画「みんなでアオハロー！つなぐau『つなぐ青春』」による、西野七瀬さんのビデオメッセージが流されました。

最後の卒業生退場の際は、クラスごとに保護者の方を向いて感謝の意を伝える場面があり、保護者の方々は感激もひとしおでした。その後は教室に全員は入りきれませんでしたが、保護者も交えた最後のHRで、別れを惜しみつつそれぞれの門出を祝いました。

改めて卒業生の栄えある未来をお祈りいたします。

速報　国公立大学107名合格　過去最高に

国公立大学後期試験の合格発表をうけ、この春の卒業生の合格状況をお知らせします。24日現在で判明している分となりますが、国公立大学合格者数は107名となり、本校過去最高の合格者数となりました。今年度は新しいカリキュラムの最初の年度ということもあり、不安を覚えた生徒もいたかと思いますが、生徒各自が精一杯取り組み、結果を出してくれました。また、例年にも増して道外国公立大学への挑戦が多かったのも特徴的でした。

橋本年次主任は「生徒たちが自分の進路目標に向かって最後まで諦めずに頑張った結果です。今までご指導していただいた先生方と支えてくださった保護者の皆様に感謝いたします」と話していました。

【主な大学合格者数】　**（3月24日現在）**

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
北海道大	3名	釧路公立大	6名	山口大	1名
道教育大	24名	旭川市立大	8名	青森県立保健大	4名
小樽商科大	6名	弘前大	4名	秋田県立大	2名
旭川医科大	1名	秋田大	1名	岩手県立大	1名
帯広畜産大	6名	岩手大	1名	高崎経済大	2名
室蘭工大	11名	山形大	2名	横浜市立大	1名
北見工大	1名	群馬大	1名	北九州市立大	1名
札幌医科大	3名	千葉大	1名	明治大	4名
札幌市立大	4名	埼玉大	1名	法政大	3名
はこだて未来大	2名	富山大	2名	青山学院大	2名
名寄市立大	1名	信州大	2名	立命館大	2名

卒業生が自分の経験を後輩に語る

14日、１年次は「卒業生による進路講演会」、２年次は「合格者と語る会」が開催されました。

１年次生には道教育大や小樽商科大、北大、北星大、名寄市立大に在学している本校卒業生９名がかわるがわるスライドを用いながら、勉強の方法や大学生活について話してくれました。１年次生から「今の『高校生活』を楽しんだ思い出の大切さから、自分も勉強を含めた『青春時代』を歩みたいなと思った」「実際に受験を経験した方々からの生の声を聞くことで自分の受験のことをより具体的に想像しやすくなった」「やる気はやらないとでない、勉強が楽しい時期に詰め込むという言葉が心に残りました」などの感想が寄せられました。

２年次は「合格者と語る会」として合格を勝ち取った49名の卒業生が進路別に９つの教室に分かれ、さらに小グループとなって座談会形式で懇談しました。２年次生の感想は「今日卒業生の話を聞いて、自分も同じように今からでも少しずつ勉強していきたいと思った」「『後悔する前にやる』という言葉が当たり前かもしれないけれど心に響きました」「合格者と語る会を通して、沢山の勉強についての悩みなどを改善することができたのが良かったです」

生徒たちは大いに刺激を受けたようで、終了後、進路指導室にたくさんの生徒が来ていました。１・２年次生の皆さん、今の気持ちを忘れずに、自分の目指す第1志望の合格を果たせるよう頑張りましょう！

三条プリズム

この３月31日をもって８名の教職員の方が異動され、１名の先生がご退職されます。先生方から三条生へのメッセージをいただきました。今まで本当にありがとうございました。

ご勇退・異動される先生方から三条生へのメッセージ

◆鈴木　裕司　主幹教諭　（鹿追教頭）

この度18年間の三条高校の勤務を終え鹿追高校に異動することとなりました。私は、28歳で三条高校に着任し、３回り９年間の担任、１回り３年間の年次主任、４年間の部長、そして2年間の主幹教諭を経て46歳となりました。働き盛りのこの時期に三条高校で働けたことは私にとって人生最大の幸運でした。赴任当初は8学級もあり、これまでに数えきれないほどの多くの生徒や保護者、職員と関わり、貴重な経験を積ませていただきました。現図書局の生徒や授業等で関わった2年生をはじめとする三条との別れはとても寂しいのですが、三条で培った経験を生かしながら鹿追高校に貢献することでこれまでの恩に報いたいと思います。今までありがとうございました。

◆伊藤　智昭　教諭　（礼文教頭）

次年度から、礼文高等学校に教頭として赴任することになりました。三条高校では、様々な部活動を体験しました。今年度は、スケート部の顧問として、世界を目指す選手と一緒に時間を過ごすことができ、とても刺激的な日々でした。昨年度、年次主任として卒業していった生徒たちが、教育実習などで三条に戻ってきたときに会えないことは少し心残りです・・・。

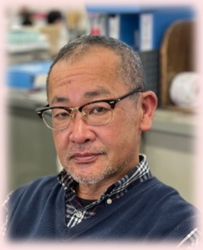
かなり距離が遠いので、なかなか皆さんと道端でバッタリ会うようなことはないかもしれませんが、ホームページなどをチェックして、三条生の活躍を見ていきたいと思います。今までありがとうございました。礼文島に来るときは、お声掛けください。

◆金澤　啓史　教諭　（上士幌）

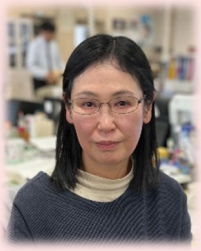
三条高校に９年間お世話になりました。赴任した時の第１印象は、「挨拶が素晴らしい学校だな！」でした。コロナの影響で三密を避ける日常となり、その反動なのか三条生らしい挨拶が影をひそめるようになりました。

三条高校の良さを再確認し、今以上に活気あふれる学校にしてください。2年次生、頑張ってください。卒業式見に来ます。さようなら！

◆立浪　哲也　教諭　（帯広緑陽）



三条は私の出身校です。高校在学中は三条が大嫌いで、何度も退学することを考えたほどでした。だから高校の教師になって三条への転勤が決まったときはとても複雑な心境でした。あれから22年、この春をもって定年退職となります。あれほど大嫌いだった三条で教師として定年退職を迎えることに不思議な感情を抱いています。２年前に担任を持ったとき、皆さんを卒業まで見送れないことはわかっていました。だから２年間で３年分の思いを込めて仕事をしてきたつもりです。少しでも皆さんの力になれたならうれしく思います。来年の今頃、皆さんが笑顔で人生のスタートラインに立っていることを祈っています。あと１年、しっかりと頑張ってください。



◆若林　悦子　教諭　（帯広緑陽）

帯広生まれの私は、１２年前、歴史と伝統のあるこの帯広三条高校に赴任できることを誇りに思ったものです。

そして、この帯広三条高校で出会った生徒は、心温かく、聞く姿勢ができていて、素直でした。それぞれの道に向かってひたむきでした。保護者の皆様にも、協力を仰ぐと快く引き受けていただきました。相談にも乗っていただき、温かい励ましの言葉もいただきました。

このような中で、１２年間も勤めることができたことに幸せを感じていました。頑張る意欲をもらいました。感謝しかありません。

本当にありがとうございました。

◆新明　　匠　教諭（帯広柏葉）

文武両道の伝統を引き継ぎつつ、学習と部活動の両立を図り、意欲的に努力する三条生は素晴らしいと思います。学校祭では、弾ける青春のエネルギーを燃やし、あなた方が奏でる校歌の調べと旋律には、いつも心を打たれていました。来年度は創立110周年を迎えます。ある本の中に「最初に畑を耕した人のことを忘れてはいけない」という言葉があります。学校だけではなく、社会に出た時に出会うその場所は、見知らぬ誰かが作り上げた場所かもしれません。創始の精神を忘れず、その想いを想像し、先の人々に気持ちに想いを馳せる。そこから本当の感謝が生まれるのかもしれません。これからのあなた方の未来が幸せなものになることを願っています。

◆堀口　人士　教諭（札幌南）

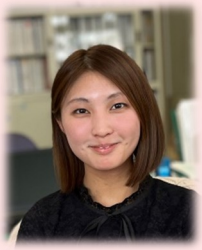
８年間帯広三条高校でお世話になりました。このたび、縁があって札幌南高校への異動となりました。３年生の担任を終えたタイミングですが、部活動や授業で関わってきたみんなと途中で離れてしまうことにさみしさを感じています。

帯広三条高校での８年間を振り返ると、生徒と一緒に、周りの教員と一緒に、地域の人と一緒に、さまざまなことに挑戦する日々だったと感じます。生徒の皆さんに“挑戦する姿勢”を見せられていれば良かったです。そんな挑戦ですが、実は結構失敗しています。「もっとこうだったら良かった」と思うことが多いです。でも、そんな経験があるからこそ次の挑戦ができていたと思います。帯広三条高校は「生徒も教員も挑戦する学校」です。ぜひ皆さんも前向きな挑戦で経験を積んで、自分の成長につなげていってください。

最後に、私が大切にしている言葉を贈ります。大丈夫、君ならできる！

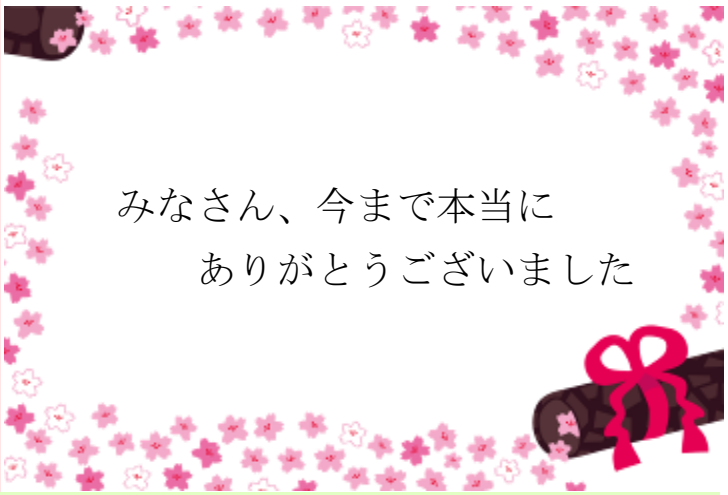
◆五十嵐 みちほ　教諭（ご退職）

三条生は勉強と部活動を両立し、エネルギッシュに頑張る人が多く、その姿に励まされていました。努力しても思うような成果が出ず悩んでいる人もいましたが、その真剣さが素晴らしいと感じていました。授業でも真剣な目で話を聞いてくれる人が多く、応援したい気持ちでいっぱいになりました。皆さんが大人になる未来は、AI技術などの進歩により、私たちの世代が想像もしなかった世界になると、よく報道されています。時にネガティブな側面を捉えがちですが、ポジティブな側面を自分の味方につけ、誰のためでもない自分の幸せを求めて人生を楽しんでほしいと思います。しなやかに前へ進んでください。皆さんの未来を楽しみにしています！短い間でしたが、お世話になりました。



◆永田麻理亜　事務職員（釧路工業）

次年度から釧路工業高校に赴任になりました。三条高校に赴任した当初は、初めてのことばかりで毎日戸惑いながらも様々なことを学び経験しながら過ごしていました。そんな日々の中で、周りの方にはたくさん支えていただきとても感謝しています。まだまだ未熟な私が、三条高校のような伝統ある学校で3年間勤務することができてとてもよかったと思っています。生まれ育った十勝を離れるのは寂しいですが、次の勤務先でも三条高校で経験したこと活かしていきたいと思います。三条高校の皆さんのこれからが幸せなものになることを祈っています。3年間お世話になりました。



５年間のご愛読ありがとうございました ～ 編集後記に代えて

ご退職・異動される先生方、本校のためにご尽力いただき誠にありがとうございました。みなさんの新しい場でのご活躍をお祈りします。そして私も定年退職となり三条を去ることになりました。４月からは十勝教育局主幹として、微力ではありますが北海道教育のために力を尽くしたいと思います。

庁内公募制校長として赴任して５年。コロナ対応に追われた１年目。シフト制を導入し、働き方改革に着手した２年目。本格的な探究活動がスタートした３年目。全国高体連スケート専門部長を務めることになった４年目。そして集大成の５年目。地域開放講座も実施することができました。生徒たちの活躍に励まされ、先生方に支えられた５年間でした。また、PTAや同窓会の方々との交流のひとときが自分にとって大切な時間でした。自分が楽しみすぎてご迷惑をお掛けしたのではないでしょうか。

この学校通信『木蔭静けく』は、校長からの発信の1つの手段として作成してまいりました。この５年間、毎月発行してきたことは、数少ない私の胸の張れる仕事だったと密かにおもっています。

今号で合浦版『木蔭静けく』は終了します。５年間、ご愛読ありがとうございました。

校長　合浦英則